



とらいあんぐる



2014 年 1 ・ 2 月

一音会ミュージックスクール発行

「いつか」

母が、晩年、よく口にしていたことがあります。

「キョウちゃんを生んでくれてありがとう」

こうもいっていました。

「アヤコがしてくれた最大の親孝行は、キョウちゃんを生んでくれたことだわ。キョウちゃんに出会えて良かった」

もっと他にもいろいろ親孝行をしてきたつもり私にとっては、「それなの？」と、おおいにひっかかるころなのですが、あまりに母が幸せそうな顔をするので、そこは問わないことにします。

それは、はじめて孫を持った喜びとも違っていました。

かつて、その理由を教えてくれたことがあります。

「お母さんね、ずっと会いたかったの。思い出さない日は、1日もなかったわ。もう二度と会えないと思っていたわ。ひと目会えるのだったら、死んでもかまわないと思ったわ。だから、後を追いたいと、何度も何度も思ったものよ」

母の目からは、あとからあとから涙があふれ出ます。

「死んだら会えるのかしら、って。でも、死んでも会えないのかしら、って。もう、悲しくて、悲しくて。そうして、待って待って・・・それが30

年目に、まさか会えるとは。本当に思ってもみなかったわ！」

誰のことをいっているのか、すぐ分かりました。

私の姉が亡くなって、30年たって生まれたキョウコを見て、母は「ああ、やっと帰ってきてくれた」と、思ったのでした。

もちろん、「生まれかわりだなんて、そんな非科学的なことを・・・」と思いました。しかし、長く癒えることのなかった母の悲しみが、少しでもやわらぐのであれば、それを肯定してあげたいとも思いました。

母は、姉が亡くなってから30年もの間、泣いている朝が、何度もありました。決まって、姉の夢からさめた朝でした。

しかし、キョウコが生まれてからの母は、姉のことを想うことはあっても、姉の夢に泣くことがなくなりました。

私が、名前をキョウコと決めた時には格別、母は喜びました。

私の姉は、葉子（ヨウコ）といいました。

キョウコという名前をローマ字で書くと「KYOKO」です。そこには、姉の名前「YOKO」が含まれていた

からです。まったくの偶然でしたが、最初にそれに気づいた母は、本当に嬉しそうでした。

母とキョウコの間柄は、おばあちゃんと孫という関係をこえていました。音楽という共通項で結ばれた二人は、1日のほとんどを、一緒に過ごしていました。

幼いキョウコが、母のベッドにもぐりこんで、母のかたわらで眠ってしまうことも、たびたびありました。キョウコの寝顔は、お母さんに抱かれる子そのものであり、母の幸せそうな表情は、まさに母親のそれでした。

この人たちは、本当に母娘なのだと、いつしか私も心の底から思うようになり、私もまた、こうして母の人生の失われた時間を埋めるかのように、姉が帰ってきてくれたことを、喜ぶようになりしました。

ある時、母が私に、とてもいいにくそうに、あることを切り出しました。

5～6年前のことです。

「アヤコ、1つ、お願いがあるのだけれど・・・」

母がいいにくそうにしているのは、とてもめずらしいことです。

母は、巨大な願いごとでも、まるで

「そこのおしょうゆ、とってちょうだい」くらいの口調でいう人でしたので、何が飛び出すのかと、私は身構えました。

「将来、キョウちゃんに、もし子どもが生まれたらね・・・」

母はまだいいにくそうです。

「キョウちゃんの子どもにね、子どもの名前にね、お母さんの名前の“寿”の字を使ってくれないかしら・・・」

私は、拍子抜けします。

「な～んだ。そんなことなの！」

安うけあいする私に対し、母は、まだ不安そうな顔で、「本当にいいの？」と、何度もたずねてきます。

当時、キョウコは小学校3年生くらいでした。

正直、私は、キョウコの子どもなんて、想像したこともありませんでした。

でも、それはとても楽しい想像でした。

「いいわね！ キョウコの子どもには、絶対、“寿”の字を使う！ だって、良い字だもの」

私は、楽しくなって、続けます。

「お母さん、キョウコの子どもにも、ちゃんとピアノを教えてやってね。私に教えてくれたように！ キョウコに

教えてくれているように！」

その時、私は興奮していて、母がどんな表情をしていたか、よくおぼえていないのです。

母は、あいまいな顔をして、微笑んでいたように思います。

しかし、「ええ、教えてあげるわ」と、いわなかったことは、おぼえているのです。

なぜいわないのか、とてもひっかかったので、おぼえているのです。母は何もいいませんでした。

このやり取りは、その後ずっと、思い出すことがありませんでした。

思い出したのは、母のお通夜の晩です。

もしかしたら・・・もしかしたら・・・姉がキョウコとなって帰ってきたように、母もまたキョウコの子どもとなって、帰ってくるつもりなのかもしれない・・・。

突然わいた考えでしたが、ひとたび、そう考えると、そうとしか思えなくなってきました。

名前のことにこだわった理由も、合点がいくのです。

お通夜の晩、私はこの思いつきを、キョウコに話さずにはられませんで

した。

「おばあちゃんは、もしかしたら、キョウコの子どもとして、帰ってくるつもりなのかもしれない・・・」

するとキョウコは、突如、堰を切ったように号泣しました。それまで、涙を見せず、気丈にふるまっていたのに、突然でした。

もしかしたら、キョウコにも、思いあたることがあったのかもしれませんが。

号泣しながら、途切れ途切れに、キョウコがいます。

「おばあちゃんが・・・私の子どもになって生まれてきたら・・・今度は私が・・・おばあちゃんにピアノを教えてあげるんだ・・・私が教えてもらったように・・・今度は私が・・・おばあちゃんに・・・ピアノをいっぱいいっぱい・・・教えてあげるんだ・・・」

その晩、私とキョウコは、母に手紙を書きました。

「かならず、帰ってきてね。その日だけを楽しみに、がんばって生きるから」と。

その手紙を棺に入れた日から、もうすぐ2年が経とうとしています。

発作的な悲しみに、自暴自棄になった瞬間があります。死んで母に会いたいと思った瞬間も、数えきれません。

しかし、ふみとどまれたのは、あの約束です。

いつか、会える。

いつか、キョウコの子どもとして生まれてきた母に、「おかえりなさい」といわなくてはいけない。

私が、母を迎えなくてはならない。

いつか来るその日まで、この世で、がんばらなくては。

その「いつか」に馳せる想いが、今の私を支えているのです。

(江口 彩子)



◆今年もよろしくお願ひいたします

新しい年がはじまりました。

今年も、年の終わりに、「今年もまた一段とピアノが上手になったね!」と、皆さまにいていただける年にしたいと、心から願っています。

スタッフ一同、気持ちを新たに、指導にあたらせていただきます。今年も、ご家族の皆さまには、多くのご協力を頂戴することになるかと思いますが、どうかよろしくお願ひいたします。

◆新年度のレッスン希望表をご提出ください

「今年のあゆみ」とともに、「2014年度変更希望表」、「新月謝表」を、お配りしています。万が一、お手元にとどいていない場合は、ショパンはうすにご連絡ください。

「変更希望表」は、来年度の、レッスン科目、曜日、時間のご希望をおうかがいするものです。たいへんお手数ですが、全員の方のご提出をお願ひいたします。変更をご希望でない場合にも、「変更なし」として、ご提出いただきたいと思います。

新年度からのスケジュールが、はっきりとは分からない場合には、仮の希望をいったんお出しください。スケジュールがはっきりし次第、後日、改めてお出しただければ大丈夫です。

なお、曜日や時間を変更する場合には、ほとんどの場合、担当が変わることをご理解ください。現在、その日時で受けていらっしゃる生徒さんが、最優先となるためです。もちろん、ご希望の日時の付近で、現担当の手をあげることができそうな場合には、できるかぎり担当を変えずにお組みするよう、努力いたします。

また、担当が変わる場合にも、個々の生徒さんに、一番適したスタッフが当たるよう、考慮いたしますので、ご安心ください。

ご希望は、担当の先生の目にふれることなく、本部で処理します。ご遠慮なく、率直なご希望をお書きください。

希望表は、2月16日(日)までに、添付の封筒に入れて、ショパンはうす受付にご提出ください。本部あてに郵便でお送りいただくこともできます。

本部住所：〒171-0051 豊島区长崎3-19-1

◆プラグゲ先生のコンサートを開きます

今年は、モーツアルテウム教授、ロルフ・プラグゲ教授に、一音会にお越しいただけることになりました。

レッスンは、2月20日（木）の1日のみ、ひびきホールでおこないます。

30分レッスン……レッスン料（12,500円）＋通訳（2,500円）→15,000円

60分レッスン……レッスン料（25,000円）＋通訳（5,000円）→30,000円

レッスンをご希望の方は、申込み順でお組みしていきますので、お早めに本部までお電話にてお申込みください。

コンサートは、2月22日（土）16：30開場、17：00開演、場所は「ひびきホール」です。一音会関係の方は、大人2,000円、子ども1,000円、ショパンはうすの受付にてお買い求めください。

またとない機会ですので、コンサートには、ぜひ足をお運びください。

◆「フォルテの会」を開きます

3月2日（日）に、「フォルテの会」を開きます。場所は「ひびきホール」、入場は無料です。「フォルテの会」は、ヴァイオリン、フルート、作曲、声楽などの副科と、「うたくらぶ」の生徒さんたちの発表会です。

副科に興味をお持ちの生徒さん、ご家族の方には、ぜひ足を運んでいただきたいと思います。先生たちの演奏も予定しています。

出演申込みのご案内は、2月上旬ごろからお配りします。

◆プリドノフ先生ご夫妻のスケジュール

3月に、客員教授のプリドノフ先生ご夫妻が来日されます。

今回は、コンサートのかわりに、公開レッスンをおこなっていただくことになっています。

これまで非公開でレッスンをおこなっていただきましたが、今回は特別に、両先生の指導を、皆さまにご覧いただける場を設けました。公開レッスンの場所は、「ひびきホール」（入場料未定）。

例年通りのレッスン（非公開）、および「ジュニコン・オーディション」もおこないます。「オーディション」の要項は、次の項をご覧ください。

これら、プリドノフ先生ご夫妻に関する日程は、下記の通りです。

プリドノフ先生ご夫妻

レッスン：3月15日（土）・17日（月）・18日（火）

公開レッスン：3月16日（日）

ジュニアコンサート・オーディション：3月21日（祝）

レッスンは、五線読譜が完成した生徒さんなら、どなたでも受けることができます。担当の先生と相談して、ぜひ準備をすすめてください。ご不明の点やお迷いの点がおありでしたら、お気軽に本部にご相談ください〔本部：03-5966-7711・担当：谷口〕。

30分レッスン……レッスン料（10,000円）＋通訳（1,600円）→11,600円

45分レッスン……レッスン料（15,000円）＋通訳（2,500円）→17,500円

60分レッスン……レッスン料（20,000円）＋通訳（3,300円）→23,300円

◆「ジュニコン・オーディション」にご参加ください

「第9回ジュニアコンサート・オーディション」を開催します。生徒さんの、音楽性、実力、将来性、すべてを総合的に評価する審査となります。

以下が、エントリーの要綱です。

- ① 「ジュニコン・オーディション」は、「ひびきホール」でおこない、公開とします。たくさんの生徒さんにオーディションをきいて、学んでもらいたいからです。
- ② 曲目は自由ですが、演奏時間は最短6分から12分程度までとします。組曲

や変奏曲の抜粋、ソナタの楽章の抜粋、短い曲を何曲か組み合わせてもかまいません。6分～12分は目安です。多少オーバーしてもかまいません。

- ③ エントリー資格者は、2014年4月時点で、小学4年生～高校3年生の、一音会に在籍する生徒さんです。
- ④ エントリーするための費用は15,000円です。これは全額、審査員の先生ご夫妻や通訳者へのお礼にあてられます。もし、選ばれて「ジュニア・コンサート」に出演することになったら、コンサート出演費用5,000円が必要になります。
- ⑤ 「ジュニア・コンサート」は、4月28日（月）夕方、「ゆめりあホール」でおこないます。
- ⑥ 強制ではありませんが、オーディションの前に、プリドノフ先生ご夫妻のどちらかのレッスンを受けて、的確なアドバイスをいただくといいと思います。

ただし、合否は当日の演奏のみで決まりますので、「先生ご夫妻のレッスンを受けなければ合格しない」などということはまったくありません。

◆お知らせ

「未来通信」をしばらく休刊します。



スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp 電話：03-3954-9999

※お電話での質問時間は、毎週水曜日の午後7時半～9時半です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。ご質問は、多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。